

関西圏地盤情報データベース研究利用報告書

研究課題	京都市南西部低湿地帯の表層地質と遺跡形成		
研究者	中谷正和、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所、調査課担当係長		
研究期間	2022年 11月 ~ 2023年 11月	報告日	2023年 11月 6日
研究目的： <p>桂川・宇治川・木津川の合流地帯にあたる京都市南西部の沖積低地帯は、従来、集落遺跡の空白地帯と認識されてきた。しかし近年では、「淀津」の推定地である淀水垂大下津遺跡や、古代から中世の平地居館跡である富ノ森城跡など、従来の想定を覆す発見や調査が相次ぎ、当該地の歴史的環境に対するこれまでの認識を改める必要に迫られた。</p> <p>そこで京都市南西部の沖積低地帯の歴史的環境を再考するにあたり、その基礎作業として、これまで実施されてきた周辺の発掘調査成果の集成や、旧河道の復元を目的としたボーリングデータを用いた表層地質調査を実施した。</p>			
研究内容と成果： <p>(ア)京都市南西部で実施された遺跡発掘調査の成果をもとに基本土層柱状図を作成し、各時代の地表面の標高および、砂礫層からなる旧河道(推定桂川)の堆積物を確認した。</p> <p>(イ)上記結果をもとに、関西地盤データベースのボーリングデータから旧河道堆積物(砂礫層)の座標と標高を求め、QGISで砂礫層の分布を等値線図として可視化し、旧河道を復元することとした。</p> <p>結果、①現富ノ森集落から南東方向に向かう旧河道および、②現桂川河道の東側で南西方向に向かう旧河道が存在する可能性が高いことが明らかとなった。また、周辺の発掘調査の成果から、各旧河道の時期も推定した。</p> <p>成果(ア)については、途中経過として令和4年度全国埋蔵文化財法人協議会近畿ブロック研修会で発表した。成果(イ)は、令和5年度に京都府立京都学・歴彩館の共同研究会「洛南の文化資源共同研究プロジェクト」で発表し、『令和5年度京都府域の文化資源に関する共同研究会報告書(洛南編)』(令和6年刊行予定)にて報告する予定である。</p>			
公開資料(論文等)： <p>中谷正和「京都市淀水垂大下津町遺跡の調査成果と桂川下流域の地形環境変化」『令和4年度全国埋蔵文化財法人協議会近畿ブロック研修会資料集 淀川周辺の地形変遷と遺跡形成』、2023年</p> <p>中谷正和「京都市南西部低湿地帯における旧河道の復元(仮)」『令和5年度京都府域の文化資源に関する共同研究会報告書(洛南編)』(令和6年刊行予定)</p>			

※貸出期間終了後、研究利用報告書(本様式)と研究成果(論文等)を提出してください。

※研究利用報告書は、KG-NETのHPに掲載いたします。